

独立行政法人国立病院機構  
**横浜医療センター**

〒245-8575 横浜市戸塚区原宿 3-60-2

TEL 045-851-2621 FAX 045-853-8359



国立病院機構横浜医療センターは、横浜市南西部地域中核病院、地域医療支援病院、神奈川県がん診療連携指定病院に指定されています。救命救急センター、ICU、CCU、SCU、小児救急、周産期センター、NICUを備えた地域の急性期型高度総合病院として機能しています。

診療面は、関戸統括診療部長の御指導の下、計9人のスタッフが2チームに分かれて診療を行っています。2017年の手術件数は、年間669件でした。主な手術件数は、腹臥位胸腔鏡下食道切除再建2例、胃癌切除54例↑、大腸癌切除96例、肝切除33例、腓頭十二指腸切除17例、腹腔鏡下胆摘69例、開腹胆摘26例、虫垂切除52例、鼠径ヘルニア根治術107例で、2016年とほぼ同様の件数でした。

今年の話題として、松田が化学療法センター長となり、化学療法室の運営・レジメン審査・スタッフ教育等を行い、安全・安心な化学療法が出来るように努めています。

若手外科医にとっては、大小の消化器手術から外傷系の緊急手術まで幅広く執刀経験ができ、心臓血管外科(女子医大系)や呼吸器外科(一外)の手術にも入り易いことから、外科専門医修得にとっても有利な病院です。内視鏡外科トレーニングは、国立病院機構の全国規模の研修会があり、チームで毎年参加し、非常に成果が上がっています。

研修医の先生たちにも外科手術の楽しさを伝えるべく、開腹操作やラパコレで胆嚢漿膜切開、CUSAで肝切除等の手術手技、学会発表を経験してもらっています。

今年は過去最高の12人の研修医が外科を研修し、一大ブームになっています。当院研修医から入局し、今年も大活躍している井上先生の影響が大きいと思います。この勢いで、今後も外科医になる若手を増やせるように尽力していきたいと思っています。

今後とも地域で選ばれる病院になるべく、スタッフ一同協力しあって日々診療を頑張っていきたいと思えます。同門会の先生方には今後とも御指導、御協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

(文責：松田悟郎)





平成29年の横浜市立市民病院は、9月に新病院の起工式が執り行われ平成32年の開院に向けて、いよいよ工事が本格化しました。現在、WEBページで新病院イメージ動画公開中ですので、是非ご覧下さい。平成32年度の開院にむけ病院全体が一丸となって取り組んでいるところで

す。さて平成29年の外科は、消化器外科4人（大学ローテート1人）、炎症性腸疾患外科5人（大学ローテート1人）、乳腺外科2人（大学ローテート1人）のスタッフと4人の後期研修医（大学ローテート1人）、2ヶ月毎にローテートする3人の初期研修医で診療を行いました。外科一同、外来、病棟、手術、救急診療と日夜仕事に励んでいます。

さて、外科が消化器外科、乳腺外科、炎症性腸疾患外科の3つに別れ、9年経過しました。2017年の総手術件数は、外科全体で前年をやや上回り1307例でした。内訳は消化器外科約797例、炎症性腸疾患外科約360例、乳腺外科約150例でした。

消化器外科では、大腸癌手術症例数は前年よりやや増加し、腹腔鏡下の手術の割合も73%と前年より増えました。胃癌手術症例数は減少しましたが鏡視下手術は増加し、肝胆膵領域では臍頭十二指腸切除術を15例、腹腔鏡下肝切除術を5例行いました。乳腺外科は、前年とほぼ同数で、ほぼ全例でセンチネルリンパ節生検手術を導入

し、地域連携パスの運用も増加させました。炎症性腸疾患外科は、紹介患者数の減少からやや手術件数は減りましたが、関東圏はもとより全国から患者を受け入れています。

今後も地域中核病院として周辺の医療機関と連携を密にし、より一層地域医療に貢献していきたいと思えます。これからも、ご指導ご支援の程、よろしく申し上げます。

（文責：望月康久）



戸田・松尾・馬淵建設共同企業体提供



平成29年度の人事異動では、上田、峯岸、阿部、山田（淳貴）、木村が退任しました。この5名に代わり、南、後藤、南澤、酒井、堀内が着任し、山岸、牧野、山本、中堤を加えた9名で診療しました。例年と同様に、南澤、酒井、堀内が呼吸器外科と外科、消化器外科をローテートしました。それに加え、2か月毎に卒後1年目、2年目の初期研修医がローテートし、手術・病棟管理を担当しました。また、今年度のイベントで最も印象深いのは、11月に仲野院長が神奈川県医師会からその功績を表彰されたことです（写真）。

2017年1月～12月の主な手術件数は、乳癌99件、肺癌53件、食道癌8件、胃癌57件、結腸癌90件、直腸癌52件、原発性肝癌10例、転移性肝癌12例、胆道癌6例、膵癌11例、胆石症117例、虫垂炎68例、鼠径ヘルニア143例でした。

今年度は10月に山本が乳がん専門医を取得したので、これから病院戦略として乳がん専門外来を新たに造設し、積極的にアピールしていく方針です。例年通り上部消化管担当の牧野がガイドラインに則りLADGを指導しており、今年は年間13例に施行しました。また、食道癌手術症例が8例と例年より多かったです。大腸癌に対する腹腔鏡手術は130件（91.5%）となり、昨年同様年間100件を突破しました。最近では1年毎に人員が異動するので指導が非常に大変で、内視鏡外科学会技術認定医を育てる環境整備が必要だと考えています。肝・胆・膵は南を中心に例年と同様の手術件数を行い、多発肝転移症例も術前化学療法後に積極的に切除し、適応を厳格にし

て腹腔鏡下肝切除術も施行しています。緊急の腹腔鏡下胆嚢摘出術は、若手の腹腔鏡技術向上に有用で、ガイドラインに準じて積極的に施行しています。鼠径ヘルニアに対するTAPPは主に右側、両側症例に適応を絞り、若手の腹腔鏡手術の修練の場となっております。全例TAPPには出来ない理由は、腹腔鏡器械が不足しているため、このことは積極的に病院へ掛け合っておりますがなかなか認められません。

今年の全体手術件数は860件で、前年より68件増加し過去最高を更新しました。主に増加した疾患は鼠径ヘルニアで、前年84件が今年は143件と59件増加しました。例年通り、定時手術670件、緊急・臨時手術170件で、緊急・臨時手術が多い状況が続いています。保存加療となる緊急入院患者も多いのが実情ですが、救急科・消化器内科をはじめ、各科・各職種の皆様のサポートのおかげで手術に注力する体制が整っております。この場で深く御礼申し上げます。

本年度も恒例となった地域の小学生と保護者を対象とした「病院お仕事体験ツアー」を夏休み期間中の8月に実行しました。外科は、腹腔鏡トレーニングキットと超音波凝固装置を用いての模擬手術を担当し、大好評でした。未来の医師、できれば外科医を目指してほしいものです。

学術関連は、学会発表が59演題（パネルディスカッション3演題、要望演題1演題）、論文発表が2題と昨年と同様であり、手術だけでなく学術面でも意欲的に取り組んでいます。また、例年同様に消化器内科、外科合同

カンファレンスを地域の開業医の先生方と2か月に一度院内で開催し、紹介患者さんの情報交換と症例検討会を行っています。さらに、近隣病院との連携、親睦を目的に「湘南colon cancer conference」を今年度も開催し、がん総合医科学主任教授の市川靖史先生にご講演いただき、地域医療の発展に努めています。一方、外科医などで手術の手技向上のため、湘南西部の病院を対象にして年2回「湘南手術手技セミナー」も継続して開催してい

ます。これは手術ビデオを供覧して、普段聞くことのできないことや、他施設のやり方など多方面から吸収できる研究会で毎回好評です。

これからも、地域医療に貢献し、高水準の医療を提供できるよう努力してまいりますので、支えていただいた多くの方々におかれましては、ご指導、ご鞭撻のほどを何卒よろしくお願いたします。

(文責：山岸 茂)

## 伊東市民病院

〒414-0055 伊東市岡 196-1

TEL 0557-37-2626 FAX 0557-35-0631

2017年の当院外科は、消化器・腫瘍外科からは私1人と、京都府立医大出身の城野医師(S59)の、常勤は2名で診療をおこなっています。2016年度に思うように手術が組めなかった事から今年度は当院の管理運営をおこなっている地域医療振興協会に関連施設の外科若手医師の支援を依頼しました。1週間～3か月と交代制ではありましたが1名の支援医師が加わる事により概ね通年で3人体制での診療となっています。秋に手術の少ない時期があったためNCD登録数は264件で約10%増に留まりましたが平日日勤帯の緊急対応等、ストレスを軽減する事ができました。

手術の内訳は例年と変わりなく、手術件数増加分は緊急の虫垂炎・腹膜炎、鼠径ヘルニア、ラパコレなどでした。

結腸癌・直腸癌に対する鏡視下手術は昨年度から半数を超え、本年度も根治切除術の60%を鏡視下でおこなっています。課題としては、鏡視下で出来るものの手術枠の関係で、短時間で終わる開腹を選択せざるを得ないケースがあった事です。体位や固定等準備時間の短縮、手術時間のさらなる向上、手術室との交渉などにより(月)(金)の、午後半日枠でこなせるようにするのが当面の目標です。

現在当院は、今年度内の地域医療支援病院の認定を目指しています。もっとも困難だったのが紹介率/逆紹介率の数値目標達成でした。同じ地域医療振興協会所属の消化器腫瘍外科関連施設である横須賀市立市民病院管理者・病院長の久保章先生に貴重なご助言を賜り、参考にさせていただきながら活動をおこなってまいりました。



伊東市内には耳鼻咽喉科が1件、皮膚科2件、小児科専門1件しかないため患者さんが直接当院に来院する事が多く、プロジェクト開始当初は数値達成は難しいと考えておりました。しかし外科をはじめ他の診療科で補う事ができたため今年度の通年で紹介率50%・逆紹介率70%を超え、年度末には無事に申請出来そうな見込みです。

もう一つの課題は、鏡視下手術の拡大です。他の関連施設では当たり前になっていますが当院では手術室在室時間の短縮のため、現在鼠径ヘルニアと虫垂炎は鏡視下手術をおこなっていません。若手医師だけではなく私たちの手技向上や病院経営、さらに最も重要なのは地域の皆様へ手術法の選択肢をしっかりと提示することが重要であり、手術室麻酔科と交渉を進めて実現したいと考えています。これからも医局には手術指導等、力をお借りする事が多々あると思いますが御指導御鞭撻のほど、よろしくお願申し上げます。

(文責：神谷紀之)

## 横須賀市立市民病院

〒240-0195 横須賀市長坂 1-3-2

TEL 046-856-3136 FAX 046-858-1776

横須賀市立市民病院は昭和38年12月市立武山病院として開院以来50余年になる、横須賀市・三浦半島西部地区の中核的病院です。

三浦半島の西海岸に位置し、西には豊饒の海相模湾を、東には半島随一の頂、大楠山を望む風光明媚な場所に位置しています（最上階のリニューアルされた和食レストランから望む相模湾越しの富士山はなかなかの絶景です。）。

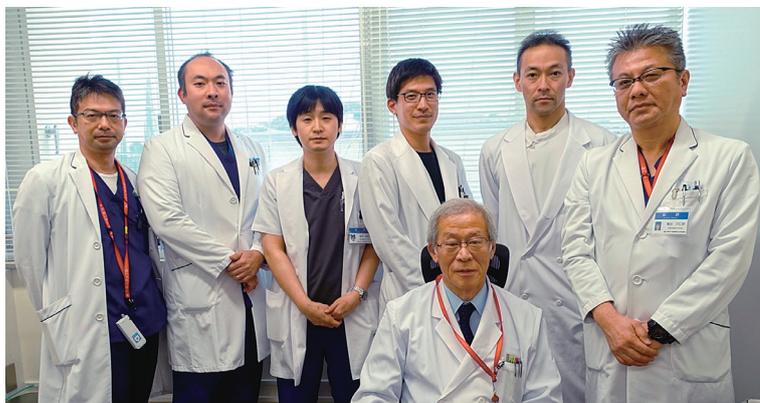
首都圏のリゾート地、逗子、葉山は目と鼻の先で、美味しいもの好きにはたまらない場所も数知れずあります。

2017年度（平成27年度）の外科は病院管理者久保（昭51）以下、副院長・診療部長の亀田（昭63）、長嶺（平5）の他、個性溢れる以下のメンバーで日夜診療に励んでいます。

「ピーちゃん」こと麗しの美声、泉澤（平16）は熟練の域に達した働きぶりを示し、峯岸（平21）は健気に働いています。山田（淳）（平24）は家庭も大事にしつつ、西に東に奔走し活躍しています。さらに日大出身の「理論派」杉浦（平6）を加えた計6名で診療にあたっています。昨年に続き構成メンバー全員が家庭持ちで、家族との時間も大切にできるよう互いに協力してやりくりしています。

高齢化社会の波を受けて、超高齢者や重篤な症例、あるいは複数の併存疾患を有する症例も本当に多くなってきました。患者さん、そしてそのご家族の期待に応える困難さを痛感していますが、これら困難な症例にも外科チーム一丸となって対応しています。

年間の手術症例は400例ほどですが、ほとんどの術者は若手ローテーターですので、十分な手術経験、修練が積めます。



若きローテーターの皆さん！是非我々と一緒に働いてみませんか。

この相模湾に面した横須賀西海岸地区で、開院以来長く地域住民の皆さんから愛され、信頼されている病院です。必ず皆さんのやる気をおこさせてくれる病院です。

そして厳しく、激しい仕事の後にはグルメを堪能してください。（横浜界隈の居酒屋で偶にある「佐島産」なる表記の「佐島」は病院のすぐそばの漁港です）。もちろんデートスポットも海沿いを中心としてたくさんあります（多分…最近ご無沙汰なので、山田（淳）にでも聞いていただければ…）。

経営に関して申し上げますと、当院は平成22年4月1日以降公益社団法人地域医療振興協会が指定管理する、所謂「公設民営化」病院へ移行しています。民営化後7年が経過し、久保管理者の強力なリーダーシップのもと着実な経営改善、健全化を達成してきています。これもひとえに、同門の先生方のご支援の賜物と一同大変感謝しております。

以上、当院の近況報告を戯文にて失礼ながら紹介させていただきます。

同門の先生方におかれましては新年度も引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

（文責：長嶺弘太郎）



## 茅ヶ崎市立病院

〒253-0042 神奈川県茅ヶ崎市本村 5-15-1  
TEL 0467-52-1111 FAX 0467-54-0770

茅ヶ崎市立病院は、湘南東部医療圏（茅ヶ崎市、藤沢市、寒川町）の中では充実した医療体制・設備を整えている茅ヶ崎市内唯一の400床以上の病院です。地域医療支援病院、災害拠点病院、DMAT指定病院等の機能を担っており、現在は地域がん連携指定病院取得にむけて取り組んでおります。2016年4月に乳腺外科が新設され、山田と医局ローテーター医師との二人体制での診療を行っています。2017年度は高畑太輔医師が赴任しました。また2017年1月からは日本乳癌学会専門医制度関連施設となっています。

外来診察は週4日行っており、2017年4月から12月末までに70余名の方が乳がんの診断となりました。当院における乳がん患者さんは50-60代の比率が高いですが、若い患者さんも少なからずいらっしゃり、妊孕性温存、乳房再建、遺伝性乳癌、子育て、仕事、介護など考えなくてはならないことがたくさんある患者さんに寄り添う医療の実現に向けて試行錯誤しています。横浜労災病院の千島先生が取り組まれている「横浜乳がん学校」に当院のスタッフが何名も参加してくれたことにも後押しされ、看護師・薬剤師・技師・作業療法士ほかの皆さんが協力的かつ主体的に患者さんのために行動を起こし、当院のチーム医療が育まれていることを実感しています。カンファレンスは周術期カンファを毎週、外来カンファを毎月開催し、他キャンサーボードなど多職種カンファレンスは必要に応じて適宜行い、スタッフの間の情報共有や勉強の機会を設けています。

手術は週2件の枠を頂いており、2016年度は原発性乳癌72例の手術を行いました。2017年度は90例前後になりそうです。2016年9月にRIのセンチネルを導入し、継続して運用しています。市中病院のフットワークを生かし、手術先行の場合には初診から一月以内に手術ができるように調整しています。またホルモン受容体陰性乳がんを中心に、術前化学療法も積極的に行っています。手術は他の関連病院同様、若い先生に術者を任せ、山田が手術指導を行うことを基本としております。また外科をローテートする研修医が乳腺外科の手術にも入るため、彼ら



には主に真皮埋没縫合の実技指導を行っています。2018年度には初めて乳腺外科に研修医が回る予定です。また当院は形成外科医が不在のため再建手術ができませんが、その分、整容性に気を遣った乳房温存術を行っています。

当院は内科系医師・外科系医師・小児科医師・ICU医師各一名ずつと研修医二人で当直体制をとっています。私たち乳腺外科は外科・呼吸器外科・整形外科・脳外科・泌尿器科と一緒に外科系当直を担当しています。当直ではない時にはオンコールとして対応しています。当院は二次救急までを受け入れているため超重症の患者さんが搬送されることはほとんどありませんが、大腿骨頸部骨折や気胸、頭部外傷、尿路結石などの他科のcommon diseaseを幅広く経験することができます。

院外活動としては昨年に引き続き、出張講座と銘打った乳がんに関する市民講座を茅ヶ崎市内の公民館で行い、市民への啓発活動に勤しんでおります。また茅ヶ崎医師会主催の研究会を通して地域の先生方とも交流を深め、連携強化に努めています。

多くの方々に支えられながら当科開設から二年が経とうとしています。これからも安心・安全な医療を提供すべく精進する所存です。御指導御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(文責：山田顕光)

## 横浜労災病院

〒222-0036 横浜市港北区小机町 3211

TEL 045-474-8111 FAX 045-474-8323

横浜労災病院は、横浜市北東部医療圏の地域中核病院として1991年に開設されました。2012年4月に乳腺外科が新設され、2015年8月からは外科（消化器・一般外科）へもスタッフが派遣されるようになり、2017年度は乳腺外科3名、外科2名で診療に当たっています。

### ☆ 乳腺外科の近況報告

2012年4月の乳腺外科設立当初から「病を診る治療だけでなく人を看る診療」を理念として、1. 患者に寄り添った乳がん診療の実践、2. 最新治療を安全かつ確実に実施できるチーム医療の確立、3. 家庭医との緊密な連携の推進を3本柱に診療してきました。2011年（乳腺外科開設前）の乳房悪性疾患・根治手術件数は63件でしたが、2016年には255件まで増加し、神奈川県内有数の乳がん診療施設に名を連ねることができました。6年目を迎えた2017年4月からは、「患者中心の医療」を実践するための包括的乳腺先進医療センターの運用を開始しました。本センターは、横浜市が推し進める「総合的ながん対策推進事業」の一つに位置づけられており、横浜市からの支援のもと「乳がんチーム医療のモデル施設」として設立されました。名称の由来として、「包括的」という言葉には「医師による治療だけではなくメディカルスタッフによる支援の充実」、「先進」という言葉には「最先端の治療だけではなく、他の地域にはない一歩進んだ患者支援の実践」、「医療」という言葉には「治療を受ける“ひと”に寄り添った患者目線での診療」という想いが込められています。包括的乳腺先進医療センターにおける2017年の手術件数は、悪性腫瘍の根治手術が247件、良性腫瘍やリンパ節生検などが68件、一次乳房再建術が70件（別途にシリコンインプラント入れ替え52件）、二次乳房再建が3件、画像ガイド下組織生検が127件でした。

これからの5年間は、1. 乳房再建などを中心に患者QOLを重視した診療の実践、2. 国内外の臨床試験や新薬治験などの臨床研究の推進、3. 就労問題・遺伝相談・がんの生殖医療・アピアランス相談・メンタルヘルスなど患者支援の充実、4. 乳がん診療に携わる全国の医療スタッフを対象としたチーム医療教育の推進、5. 病診連携の充実と高齢・併存疾患を持つ患者に対する地域包括ケアの構築を5本柱に据えて日々の診療に取り組んでいきます。



### ☆ 外科（消化器・一般）の近況報告

当院の外科は千葉大第二外科（現先端応用外科学教室）の関連施設として当院開院当初から尾崎正彦先生を中心に築き上げられてきた外科です。2017年3月まで頑張ってくれた松木先生と交代し、4月からは派遣スタッフも2名（村上剛之先生、廣島幸彦先生（6月まで）、松尾（7月から））となり、協力して診療を行っています。現在は、千葉大（6名）・横浜市大（2名）・東京医科歯科大（1名）・帝京大学（1名）のいわゆる混成部隊であり、計10名+Supervisorの尾崎先生と日々、奮闘しております。こちらへ来てまだ半年ちょっとですが、横浜市大とは少々、Regelが異なります。基本的には主治医制であり横浜市大のチーム制とは異なりますが、手術に入ったメンバーが緩やかなチームとなって上も下も協力しあって患者さんに対応しています。毎朝のカンファレンス、月曜夕方：消化器内科との画像カンファ、水曜午後：術前カンファ（他科も含めた）、木曜午後：術後報告・問題症例検討・予演会ときっちりカンファレンスを行っており、若手の先生方の教育面や医療安全面からもカンファレンスに重きを置いています。2017年の手術件数は、約750例であり、食道癌4例、胃癌45例、大腸癌122例、虫垂炎 約60例、ヘルニアは150例超と症例数は非常に豊富で緊急手術も多く、若い先生方も術者として多数の症例を経験することが可能です。さらに肝胆膵外科学会の高難度手術も今年は30例を超え、高度技能専門医修練施

設B認定の再審査に向け頑張っているところです。学術関連では、学会発表は15演題でしたが、今後は積極的に学会発表や論文発表にも取り組んでいく所存です。昨今の外科医不足のなか、当科のような多国籍軍の病院は増えてくると思いますが、横浜市大の伝統も守りつつ、多国籍軍ならではの強みを生かして戦えるような外科を目指して努力して参りますのでよろしくお願いたします。

横浜労災病院には心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、救急医療部が独立して存在し、外科専門研修プログラムにおいても専門医取得のための十分な症例を経験することができます。これからも横浜労災病院が消化器・腫瘍外科学の教育関連施設として「魅力的な病院」となれるように頑張りたいと思います。

(文責：千島隆司、松尾憲一)

## 横須賀共済病院

〒238-8558 横須賀市米ヶ浜通 1-16

TEL 046-822-2710 FAX 046-825-2103



横須賀共済病院では、横須賀市、三浦半島における地域医療支援病院・がん診療連携拠点病院として急性疾患からがん診療までスタッフ一同診療に励んでおります。

2014年4月に病院長に就任された長堀薫先生は「若手外科医が楽しんで仕事をする、救急は全応需する」ことを強調されており、スタッフは以前よりさらに多くの手術を経験しています。当直後はスタッフ同士が業務を補完しあいながら、off dutyの義務化を推進し（まだ不十分な点も多くありますが!）、最近では、休日に研究会のお手伝いや、ラボの指導に出席した場合、平日に休みをとれるようになってきており、仕事とオフどちらも充実させられるように試行錯誤しております。休暇は年3回で、夏季休暇（9日間）、病院旅行という名称の休暇（4日×2回）があり休暇も十分とれます。

今年度の外科の新たな取り組みとして、外科ホットラインの整備があります。これにより、近隣の連携病院、クリニックから24時間365日いつでも緊急患者の受け入れを迅速、かつ円滑に行えるようになりました。

術式は腹腔鏡手術が主体を占めており、ヘルニア、虫

垂炎などの良性疾患から胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵体尾部癌などの悪性疾患まで、手術の多くが鏡視下で行われています。この流れは外科だけでなく、婦人科、泌尿器科、耳鼻科、脳外科、整形外科など他科にも広がっています。

術後のフォローアップは従来通り横須賀市医師会、近隣病院と連携して地域連携パスを適用しており、胃癌、大腸癌、乳癌の早期患者はほぼ全症例紹介いただいた先生方に見ていただくことが可能となっております。現在は胃癌、大腸癌術後の補助化学療法に対する地域連携パスも導入してきており、今後さらに地域の中核病院として、外科専門研修プログラムにおいては専門研修基幹施設として、役割を果たしていきたいと考えております。

学術関連は、地域診療所の先生方、病理、内科、外科合同の消化器病カンファランスを定期的に行なっており、さらにそれを発展させた形で年2回横須賀消化器病セミナーを行っています。また、今年度も横須賀共済病院を筆頭とする学術集会総会の発表がさらに増えており、学会中の手術数の制限と人員不足がひとつの課題となりま

すが、若手外科医にとってよい刺激の場となるため、今後も両立していくことが必要と考えています。

今年度の診療体制も昨年と同様に、舛井部長、茂垣部長のもと平成8年から15年までの比較的若い中堅医師をオーブンとした若手外科医中心の診療が行われています。今年度の新規シニアレジデントは2名であり、医局からの派遣医師1名と合わせて卒後6年以下の外科医が8名と診療の中心となっています。救急患者数も非常に多

く、高難度な手術から緊急手術まで幅広く経験することができる忙しくもやりがいのある職場であると実感しています。

今後も地域医療支援・がん診療連携拠点病院として、地域医療に貢献し、さらにより高水準の医療を提供できるよう精進していきたいと考えておりますので、益々のご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしく申し上げます。

(文責：木村 準)

## 横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 横浜市中区新山下 3-12-1

TEL 045-628-6100 FAX 045-628-6101

横浜市立みなと赤十字病院は横浜市立港湾病院と横浜赤十字病院の機能を継承し、2005年4月に開院した公設民営化の病院です。

2017年4月から、外科では杉田光隆、小野秀高、渡部顕、杉政奈津子、阿部有佳、平井公也、布施匡啓、とシニアレジデント3名の10名が肝胆膵Group、上部Group、下部Groupの臓器別3チームに分かれて診療にあたっております。乳腺外科では清水大輔、鈴木千穂、シニアレジデント1名の3名が、緩和医療科では小尾芳郎が日々の診療にあたっています。また、本年度も引き続き、がんセンター長の阿部哲夫が、非常勤として月曜～水曜に、外来・手術のお手伝いをして頂いております。昨年度まで大腸肛門疾患の外来・手術に来ていただいていた高橋徹也先生が上大岡TMクリニックを開業なさったため、肛門疾患の手術が当院で必要な場合は、松島病院の松島誠先生、長谷川信吾先生に来ていただくようになりました。また、乳腺外科では東京医科大学の石川孝先生の教室からの医局員の派遣が無くなり、非常勤で盛田和幸にお手伝いに来ていただいております。

当院では、今までは、1年目の研修医の先生が外科を選択して頂いておりましたが、外科系となったため、一緒に診療当たる研修医の先生も各チーム1～2人から0～1人となってしまいました。

当院の昨年の救急車搬送患者は12,623件で、日本のトップクラスであり、基本的に救急搬送依頼を断りません。従って、緊急手術が多く、絞扼性イレウス、消化管穿孔、急性虫垂炎などの緊急手術が多いのが特徴です。

幸いながら、救急科の救急外科部長に馬場裕之先生がいらっしゃり、緊急手術の前立をしてお頂けるため、日中の緊急手術は、予定手術を待たずに行うことが出来る



ようになっております。一方で、若いスタッフが多いため、相変わらず術者になる機会も少なくなってしまっているのは否めません。しかしながら、各々の臓器のスペシャリストが若手外科医の育成できる教育システムを充実すべく努力しております。

高齢者や全身状態が不良な患者様が多いのも当院の特徴で、術後の集中管理に関しては、ICUの先生方にも協力していただきつつ、治療を行っております。

また、当院は平成2012年4月から地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、毎週火曜日に消化管がんカンサードを、毎月第2水曜日に肝胆膵がんカンサードを開催しており、消化器内科、病理、放射線科の先生方も含めて、活発な討議がなされております。

腹腔鏡下手術も積極的に導入しており、上部消化管では約1/2が、下部消化管では9割が腹腔鏡下手術を行っております。特に、結腸・直腸の腹腔鏡下の手術が100件以上行っております。腹腔鏡下手術の導入が遅れた半面、手術機材は5mmのフレキシブルスコープ、AirSeal、録画装置などの最新のものが揃っております。さらに、一

昨年度導入したDa Vinciは、泌尿器科ではコンスタントに手術が行われております。本年度からは、胃癌・大腸癌にロボット手術が適応となったため、当院でも準備を始めました。

院内のハード面も充実しており、術前検査を全て組んでも1週間はかからずに終わる事ができ、MRIやPET/CT等の検査に関しては、他院からの予約を受け付けることも出来ます。また、4月よりハイブリッド手術室ができるため、さらに、手術件数は増えるものと考えております。

一方で、立地条件で交通の便が悪いというビハインドも否めず、地域の先生からの紹介もしてもらいづらいという事もありますが、地域連携バスを積極的に導入して、術後は紹介元の先生と連携してフォローアップをさせて頂いております。

地域の先生方との連携としては、年2回、横浜消化器疾患研究会や病院主催の医師会との合同研究会などを開催しており、交流を図っております。

外科の週間予定は、月曜日の朝に全体患者の経過のカンファレンス、火曜日の夜に術前カンファレンス、消化管がんカンファレンス、水曜日の朝に病棟師長とベットコントロールを含め

たカンファレンス・抄読会、木曜日の朝に術後報告を行っており、火曜日以外は毎日手術日となっております。

医局はオープンな総合医局で、診療科で固まらないように配置されているため、他科との交流・意思疎通の良さが感じられます。一方で医師の数は年々増加しており、それに伴って医局の部屋が3つに分かれています。

さらなる地域医療に貢献すべく、質の高い医療を提供できるように、若手外科医の教育を含めて精進する所存ですので、今後とも、益々のご指導、ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

(文責：小野秀高)



## 済生会横浜市南部病院

〒234-0054 横浜市港南区港南台 3-2-10

TEL 045-832-1111 FAX 045-832-8335



済生会横浜市南部病院は横浜市と済生会の共同で建設され1983年に開院した、27診療科500床の地域中核病院です。急性期医療を担うとともに、「地域医療支援病院」として地域医療機関との病診連携も推進し、2013年4月には神奈川県がん診療連携指定病院の指定を受け、がん

診療支援センター（センター長：池秀之先生）を設置いたしました。大腸がん・胃がん術後の診療連携バスは県内でも特に積極的に活用しており、がん診療体制の充実を計りつつ、合同カンファレンスや緩和ケア研修会等の研鑽も介して地域との連携にも努めています。また、2015

年より開催しているYOKOHAMA Colorectal Cancer Seminarは、今回は6月に大腸癌術後補助化学療法をテーマとして、相澤病院、がん集学治療センター化学療法科統括医長、中村将人先生をはじめとした先生方にご講演を賜り、化学療法を介しての多職種間での治療連携の重要性を再認識して参りました。南部病院内での各種コンサートや市民公開講座、地元の港南区内の中学生を対象としたブラックジャックセミナーも継続しておりますが、本年11月には神奈川県がん教育モデル授業として、森中学校にて福島が外部講師として授業を行うなど地域に根差した活動を拡充しております。

当院は第二外科と第一外科の両医局から派遣されており、病院長は第一外科の今田敏夫先生、がん診療支援センター長・診療顧問は第二外科の池秀之先生です。外科スタッフは第二外科からは福島忠男、長谷川誠司、上田倫夫、嶋田和博、高川亮、池田孝秀の6名、第一外科からは平川昭平、大佛智彦、村上仁志、稲垣大輔、菅原裕子、橋本至、水野香世の7名、計13名で院内では大所帯の一つですが、前年に比べ減員のうえ体調を崩したスタッフの分まで両外科スタッフが一体となって乗り切った1年でもありました。一方で、本年は福島が副院長に就任され、これを良いきっかけとし、ここ数年、当院で勤務した方々との同窓会も楽しんだりもしていました。

2017年の外科手術は1,190件で、1,200件/年程度を維持しています。大腸癌切除症例は168例（関連手術200例以

上）には変化がないものの、食道癌8例、胃癌68例と上部症例が若干減少しましたが、上田の尽力もあり、肝胆膵系の悪性腫瘍手術は48例と大幅に増加致しました。乳癌は63例、甲状腺も108例と相変わらず多数行っています。ヘルニア関連手術は200例を超え、虫垂炎や94例、イレウスも60例近くとその他の緊急手術も多いのですが、その分当院に赴任された若手スタッフ成長は著しく、また、研修医の先生方にも鼠径ヘルニアや虫垂炎等も積極的に行って頂き、手術指導に加え学術指導などを楽しみの糧にしながらい日の診療に邁進しています。

手術症例のみならず化学療法症例も多く、本年は長谷川が外来化学療法室長を任され、看護師（外科外来・外来化学療法室・がん化学療法認定）、薬剤師との連携の強化にもさらに尽力いたしました。チーム医療ワークショップにも看護師・薬剤師とともに参加し、カンファレンスの充実とともに職種間の連携を更に深め、外来化学療法の円滑な運営、質の向上に努めて参りました。

本年から入退院支援センター立ち上げのプロジェクトに着手し、今後も地域医療支援病院として、また、がん診療連携指定病院として医療情報共有と高度医療の提供、がん診療体制の充実及び地域との連携活動を推進し、患者さんたちの信頼に応えられるような地域トップクラスの医療を目指していきたいと思っております。これからもご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

（文責：長谷川誠司）



2017年5月 同窓会

## 濟生会若草病院

〒236-8653 横浜市金沢区平潟町 12-1

TEL 045-781-8811 FAX 045-784-5443

濟生会若草病院の前身は西区岡野町にあった恩賜財団濟生会神奈川県病院（大正2年9月設立）で、昭和20年の横浜大空襲により焼失後、昭和21年4月15日に金沢区平潟町の旧海軍釜利谷工員宿舎を仮病院として診療を再開し、これが現在の濟生会若草病院に至っているという歴史のある病院です。

現在11の診療科と一般病棟43床、地域包括ケア病棟88床、回復期リハビリテーション病棟46床の計177床で診療を行っています。地域包括ケア病棟は患者の在宅復帰支援のために作られた病棟ですが、入院期間は60日間が限度で入院患者の7割が在宅などに退院しなければならないという施設基準があります。このため病棟調整会議を週1回行い、60日を超える長期入院患者は転院をすすめるなどしなければならない状況です。また当院は訪問診療にも力を注いでおり、急性・慢性を問わず対応できる地域密着型病院として稼働しています。

外科は前任の佐藤部長が平成28年10月に退職されたため1月から3月まで吉田、山口の2人体制でしたが、4月からは簾田部長のもと三邊、山口の3人体制で診療が開始されました。その他、菅江先生をはじめとする5人の非常勤の先生方に一般外科外来や乳腺外来、乳がん検診を担当して頂いており非常に助かっております。

当院での手術は基本的に横浜市大病院や横浜南共済病院、濟生会横浜市南部病院で速やかに施行することが困難な症例が中心で、平成29年は年間162症例の手術を経験しましたが、その内訳は鼠径ヘルニアが主で116例

（腹腔鏡74例、Direct Kugel法42例）、臍ヘルニア・腹壁癒痕ヘルニアが5例でした。その他、胆嚢摘出術14例、虫垂切除術6例、胃癌・大腸癌切除術6例などです。また当院では3Dのフレキシブル腹腔鏡を使用しています。手術は可能な限り腹腔鏡で行い患者様の負担軽減になるよう努力しています。ただ現在、残念なことに麻酔科は1人体制でかつ原則17時までの勤務体制となっています。このため夜間休日の緊急手術を行うことができず、麻酔科の充実がはかれれば手術症例数をもっと増やすことができるのではと考えております。

近隣の病院、開業医の先生方との間に緊密な関係を築くことにも努力しています。平成22年からは横浜市大病院との間に癌連携病院の契約が交わされ、療養に時間を要する症例や入院化学療法を希望する症例、癌の術後再発・非切除で緩和医療を要する症例など大学病院では対応困難な症例を積極的に受け入れています。特に癌性腹膜炎を発症し腹水のコントロールに悩む症例に対してはKM-カートをを行い症状緩和に非常に役立っています。横浜南共済病院や金沢病院との連携では近接した地理性、異なる専門性を生かして地域医療への貢献に力を入れております。

平成30年はさらに手術症例数を増やし、診療の質の向上と機能拡充を目指したいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

（文責：簾田康一郎）

## 地域医療推進機構（JCHO）

## 横浜保土ヶ谷中央病院

〒240-8585 横浜市保土ヶ谷区釜台町 43-1

TEL 045-331-1251 FAX 045-331-0864

JCHO横浜保土ヶ谷中央病院となり4年目となりました。全国57病院が参加しての地域医療推進機構（JCHO）の一員です。病院規模は変わらず許可病床数260床（稼働病床数246）で患者さんは主に近隣の保土ヶ谷区、旭区、神奈川区の方が多く、地域に密着した医療・健診・福祉の総合施設として機能しています。

H29年度、外科の体制としては、上向伸幸先生が部長に就任されてから3年目となりました。診療体制は上向部長のもと、齋藤健人（H7年、血管外科部長）、谷口浩一（H11年）、有坂早香（H20年）、朴峻（H23年）の5

名です。横浜市大・形成外科には形成外来を担当していただいております、こちらは継続していただいております。例年同様佐武先生には乳癌術後の形成手術をお願いし、週2～3例の手術を行っています。

外科病床は36床、対象疾患は例年同様で消化器癌が中心ですが呼吸器疾患（気胸、肺転移）、血管外科（AAA、ASO、シャント、下肢Varixなど）の治療も行ってまいります。当院の特徴としては、比較的血管外科の症例が多いので外科専門医を目指す先生にとっては症例確保のためにもいいのではないかと思います。

昨年手術総数は458件で例年同様でしたが、腹腔鏡手術を積極的に行う方針とし一昨年度導入した腹腔鏡下ヘルニア根治術は朴先生、有坂先生に積極的に施行していただき55例に増えました。そけいヘルニアの9割以上は腹腔鏡になっています。また、腹腔鏡下虫垂切除術を導入し、今後interval appendectomyも導入していく考えです。腹腔鏡手術の増加に伴い、今後4Kモニターを導入する予定もあります。

相変わらずかなりの高齢者、かなりの進行癌が多く術

後管理に難渋することもあります。元気に帰っていただくことにもやりがいを感じております。

当院は規模が大きい代わりに、他科の先生方やコメディカルの方々との連携が良く、いい雰囲気の中で仕事ができると思います。来年はまた医局の先生方のお力をお借りし、周辺地域の医療機関との連携を深め、一層地域医療に貢献していきたいと考えております。益々のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

(文責：谷口浩一)

## 横浜掖済会病院

〒231-0036 横浜市中区山田町 1-2

TEL 045-261-8191 FAX 045-261-8149

平成29年4月から佐藤芳樹(副院長)、森岡大介(部長)、堀井伸利(平成21年卒)の常勤3人で診療を行っています。当院のような病院の常として手術症例の確保に四苦八苦しております。

近隣で開業されている粕山信義先生が主に乳腺の手術指導、三浦勝先生が主に腹腔鏡視下大腸手術の指導に来てくださっており、常勤医の専門(佐藤→消化管・肛門、森岡→肝胆膵)と合わせると基本的に一般消化器外科で扱うすべての疾患のspecialistがそろっていると考えて差支えないと思います。また当院のスタッフだけではできないような手術でも、上部消化管の鏡視下手術は南部病院の高川亮先生、低めの直腸の鏡視下手術はセンター病院の渡邊純先生や中川和也先生、など他院のspecialistにお越しいただきご指導・ご執刀いただいております。またようやくではありますが鼠径部や腹壁癒痕ヘルニアの鏡視下手術も標準化に至り、ICUがない、常勤の循環器医が不在など病院の特性上重篤な並存疾患がない方に限られますが腹部消化器外科領域においてできない手術は現状ないと思っております。

普段手術の指導をしていて感じるのは、忙しい基幹病院では手術数をこなさなければいけないため血管をきちんと認識した郭清手技や肝門部の血管露出などは時間的制約がありじっくり指導することができないのかなあ、と思っておりますが当院は時間があり手取り足取り指導できますので、数は稼げませんが少し面倒な手技をじっくりやるにはよい環境ではないかと思っております。また肝胆膵領域の癌に対する手術は、標準的な症例では執刀のチャンスも与えています。かなりの拡大手術でもできるだけ前立ちで参加してもらうよう心がけていますので、

域症例さえあればという但し書きは付きませんが、肝胆膵領域に対するきちんとした手術も経験可能です。

化学療法、terminal careなど癌再発後の医療も積極的に行っていますので、oncologistとしてのtrainingを初診からお看取りまで総合的に行える環境にあると思います。また当院最大のセールスポイントは時間的ゆとりのある病院であるため、1例1例について熟考熟慮しながら症例に応じたきめ細かい医療を行えることと同時に、手術数は決して稼げませんがskin-to-skinにわたって蓋審にあふれた手術指導を行っており、かつて在籍した若手の先生方のほとんどから“こんな手術をしたのは初めてです”というお言葉を頂戴していますので他の病院ではできていない若手医局員の教育を行えているのではないかと自負しております。また少ないながらも関連病院の中では比較的constantに英文をpublishしている方だとは思いますが、時間がある分論文執筆など学問的活動の指導もそれなりにはできているとは思っています。

当院のような中小の急性期病院は消えゆくしかないかのような制度改革がなされている昨今で、実際に患者さんの数も減っておりなかなか苦しい状況ではあります。しかしながら、大病院であるが故の小回りの利かなさで近隣の大病院で診きれない患者さんのbackupを行いながら近隣の開業医の先生方が気軽に紹介できるという当院ならではのmeritを生かし、2020年の新病院への移転へ向けて今後もなお一層努力を続け患者さんだけでなく医局員のみならずにも魅力的な病院にしていきたいと思っております。

(文責：森岡大介)

## NTT東日本関東病院

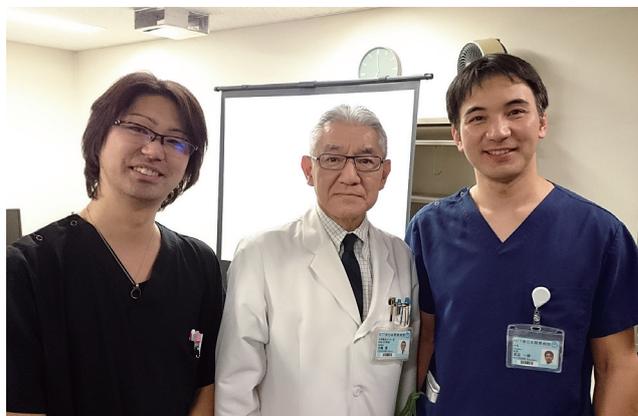
〒141-8625 東京都品川区東五反田 5-9-22

TEL 03-3448-6557 FAX 03-3448-6558

NTT東日本関東病院の近況報告です。横浜市大からは古嶋薫先生（S54卒）を筆頭に、渡辺一輝（H11年卒）、山口和哉（H22年卒）が勤務しており、医局からは3名の体制となっております。基本的にわれわれは下部消化管手術（肛門・大腸疾患）を中心に診療にあたっております。

大腸癌手術は原発切除例が約200例/年を維持しており、市内でも症例数の多い施設です。消化器内科で内視鏡治療に力をいれているため、院内からの紹介症例数が多いという幸運もありますが、きっちりとした外科治療ができていられるのも選ばれている理由だと自負しております。今後もロボット手術などの新しい手術を導入するなどして他施設に負けない魅力を提供しつづけていく予定です。ただ、やはり一番大事なものは人と人との関係だと思えます。一生懸命に患者さんをみてみると、次の患者さんは自然にきてくれるようになってきます。市内であってもどこであっても、患者さんとのひとつひとつの関係を大事に積み重ねていくことが大切なのだと思う毎日です。

2018年3月には重大事件があります。NTT東日本関東病院の屋台骨として、特に大腸肛門疾患の顔として尽力いただいた古嶋先生が退任されます。NTTに來られた方にはご存じの、あの掛け声がきけなくなるなんて…、寂しい気持ちでいっぱいです。夜になると五反田の町に



繰り出される先生もとても魅力的なのですが、病院ではとにかく回診は欠かさず、毎朝夕に患者の声をきき、毎朝夕に患者のお腹を診察される姿は医師としてかっこよすぎました。患者さんからの絶対的な信頼もここから生まれてくるものなのだと、先生の背中から学ばせていただきました。この伝統を横浜市大の後輩のみんなでも継続していければと思います。

下部消化管手術の腹腔鏡手術の経験もでき、横浜とは異なった治療や手術手技を学べ、素敵なお場所も多い五反田は今後もおすすめスポットですので働きにきてください。

（文責：渡辺一輝）

## 長津田厚生総合病院

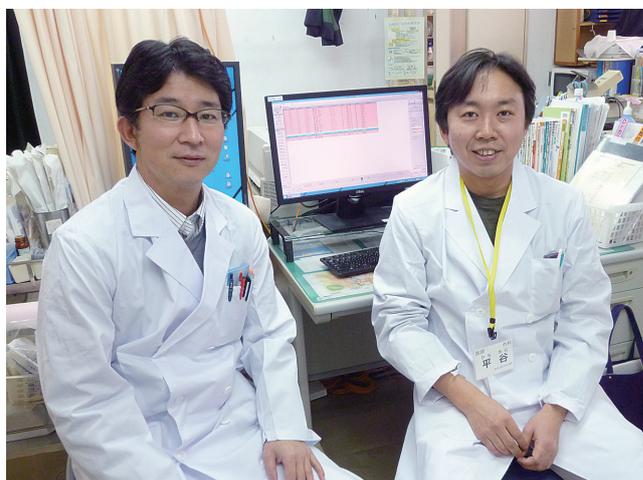
〒226-0027 横浜市緑区長津田 4-23-1

TEL 045-981-1201 FAX 045-983-3647

長津田厚生総合病院は、日ノ出町に昭和22年に診療所として開設し昭和24年に病院に転換した日ノ出町厚生病院が前身です。その後横浜市北部の開発に伴い昭和30年に長津田厚生病院が開設され、昭和43年には拠点を日の出町から長津田に移し、現在の長津田厚生総合病院としての診療が始まりました。

病院規模は許可病床数が190床で、そのうち急性期一般病床が170床、療養型病床が20床です。健診センターや人工透析センターも併設されており、地域にとけ込んだ病院として機能しています。また、消化器病センターでは内科と外科の垣根を取り払い、消化器疾患に悩む患者様の視点での治療体制を確立するよう努めています。

外科は、昨年4月に外科部長の森と平谷が一度に交代



森先生と平谷先生の2ショット

し診療を開始いたしました。2人体制ではありますが、胆嚢摘出術・虫垂切除術・ヘルニア根治術は腹腔鏡手術を標準治療とし、胃癌や大腸癌でも積極的に腹腔鏡下に手術を目指しています。しかし、まだまだ若輩な二人のみであるため、大学や関連施設から医師の派遣を依頼することも多く、協力していただいた施設や施設長の先生方には大変感謝しております。

症例数は多いとは言えませんが、2017年は昨年より約40例増加し182例の手術を施行しました。内訳は鼠径ヘルニア26例、虫垂切除術14例、胆嚢摘出術16例、結腸・直腸癌手術22例（うち腹腔鏡は8例）、胃癌手術7例（うち腹腔鏡は1例）などです。高齢で複数の合併症をもった症例が多いのですが、安全を第一に考えながら積極的に手術を行ってきた結果と思っております。

さらに外科では入院患者数増加の一環として末期癌患者の終末期・緩和医療にも力を入れており、近隣の病院からterminalの患者様を積極的に引き受けさせていただきました。

私立病院の宿命ですが、私達は絶えず集患に知恵を絞ってきました。病診連携講演会を開き、開業医の先生をお呼びしての講演会や病院の宣伝を行いました。また病院の全面改築については数年来構想が練られてきており、いよいよ2018年より着工となる予定です。新病院が完成すれば患者数、手術件数も増加することが期待され、当院の医療の質の向上とさらなる発展につながるものと願っております。

（文責：森隆太郎）



新病院外観（予定図）

一般財団法人  
**育生会横浜病院**

〒240-0025 横浜市保土ヶ谷区狩場町 200-7  
TEL 045-712-9921 FAX 045-712-9926

育生会横浜病院は、昭和21年9月、戦災により医療機関がほぼ壊滅し、医療、分娩に窮乏する横浜の状況を憂慮し、初代理事長碓井貞義氏が中心となって創立された財団法人が礎となっており、平成28年に創立70周年を迎えました。設立当初より、通常の医療活動に加え、社会福祉事業法の定めによる無料低額診療事業、特に乳幼児の保健と保育に力を注いできました。そのため、「生まれ育てる会」の意味から、法人名が「育生会」と命名されました。

平成7年、横浜駅西口に程近い岡野町に開設された病院を保土ヶ谷区狩場の現地に移すにあたり、今後日本に



において極めて重要となる高齢者医療に重点を移すべく、医療・保健・福祉が隣接する他に類のない複合施設を開設しました。この時期における母子医療から老人医療への転換は、じつに先見性のある決断でした。創業碓井家のその理念は、来院高齢者の利便を図るために院内の坂道に敷設されたモノレールにも反映されています。また働く女性や高齢者に配慮した職場環境が評価され、4年連続、通算5回のよこはまグッドバランス賞を受賞しています。

これまでの医療は、治療（cure：キュア）が最優先され、社会へ多大な貢献を行ってきたことは間違いないのですが、この先、急速に高齢化が進むとされる将来の日本においては、介護・養護（care：ケア）もたいへん重要になってくることと考えられます。いかにcureが進化しても、100%必ず人間は死を迎えなければならないという現実を見据えれば、「患者さんがいかに自分らしく、どのように生涯を全うできるか」を考えながら、患者さんに寄り添い支えるcareを誰かが担っていく必要があります。cureの最前線で激務をこなしてきた外科医がやるべき業務なのかと思われる方も多いでしょうが、死と真摯に向き合ってきた外科医だからこそcareの現場で果たすべき大きな役割があると私は考えています。今後開業を考えるドクターにとってもこの分野は決して無視できないはずです。

その点において、当院は、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、患者さんやご家族を支える訪問診療を早くから導入しています。さらに同じ敷地内に病院、特養、老健を併設していますので、日本が直面する超高齢化社会において、地域医療ケアの中心となって貢献する使命があるものと考えています。

このような理念のもと、平成28年2月より、地域包括ケア病棟を開設したところ、病病連携、ならびに在宅ドクターとの病診連携や地域の訪問看護ステーション、ケアマネージャーなどからの引き合いが一挙に増え、入院数はそれぞれ倍増しました。



その内訳をみると、急性期病院での治療が終わった高齢者の後急性期医療、末期がん患者の看取り、地域からの緊急入院（熱中症、誤嚥性肺炎、脱水、老衰など）に加え、介護患者の一時預かり（レスパイト入院）などとなっており、急性期病院では受け入れにくい高齢患者が受け入れられていることがみてとれます。

退院についても、院内療養病棟（在宅復帰機能特別加算を取得しており、転棟イコール退院扱いとなる）、隣接の施設、グループホームなどへの転所、さらには在宅医への紹介など、さまざまなルートを通じ、地域へお返しするよう努めています。

このように地域包括ケア病棟は順調に稼働し始めたものの、実務面ではまだ模索するばかりです。しかし、私も就任3年目を迎え、看護部長、事務部長として、かつての勤務先と一緒に仕事した仲間に来てもらうことができました。また、懸案の内科医についても、この病院の理念に共感した人材が集まるようになりました。この先も、医局のご支援を仰ぎながら、地域医療充実のため頑張りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

実地の医療とは関係ないのですが、当院ではテレビの医療ドラマのロケが時折り行われています。先日、TBS系「コウノドリ」の撮影が2回にわたり行われ、星野源さんが来院されました（写真右端）。地域貢献のためには、とにもかくにもまず当院の存在を知ってもらうことと考えます。理事長共々様々な手をこの先もうっていきたいと思います。

（文責：長堀 優）

## 港南台病院

〒234-8506 横浜市港南区港南台 2-7-41  
TEL 045-831-8181 FAX 045-831-8281

引き続き、大塚裕一（H8年卒）が常勤として勤務を続け5年目を迎えました。外来診療、病棟業務を行いながら施設や個人宅に訪問診療を行っております。定期訪問をしている施設は平成29年12月現在で19施設633人（1年で296人増加しました）、個別訪問を行っている方は100人でした。在宅療養としてのお看取りは年間58人を担当させて頂きました。これらの患者さんの多くが済生会南部病院、横浜市大病院、横浜市大センター病院、若草病院等の医局関連病院から直接ご紹介いただいた方々です。地域の在宅療養や終末期医療を支える病院、介護老健、有料老人ホームを抱える施設グループとしての責務を感じます。病床を有する訪問診療を行っている病院と

しては地域内では珍しい存在であり、病床をもたない訪問診療専門クリニックと、訪問診療を行わない2次3次病院との中間的な立場として存在意義を発揮できるものと思っています。また、最近では、都立駒込病院、癌研有明病院、国立がんセンター中央病院など都内の病院からお看取り目的の症例もご紹介いただくようになりました。転院時には退院前に直接病床に向いてご本人からお話を伺ったりするなど、転院に際しての心的負担を少しでも軽減できるように努めています。今後とも地域医療に貢献してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

（文責：大塚裕一）

## 松島病院大腸肛門病センター

〒220-0041 横浜市西区戸部本町 19-11  
TEL 045-321-7311 FAX 045-321-7330

松島病院は平成29年4月に病院のホームページをリニューアルしました。古いものは文字数が多く閲覧者には見づらいうででありました。検索して当院のホームページに辿り着いても、情報を得るには不親切であったと思われました。今風の文字が大きく、見やすいものができたと感じていますが、これからも修正を加えてよりよいものに改善したいと存じます。当院のホームページに不具合があれば、遠慮得なく指摘していただければ幸いです。

また、当院に患者様をご紹介いただいた先生に対する手術報告書も変更いたしました。従来の手書き報告書は内容にも乏しく不親切なものであったと反省しております。未だに不十分であり完璧なものとはいえませんが、WORDで文章を入力しておりますので多少は読むに耐えるものになったと思います。当院の報告書の件でも御意見などがございましたら宜しくお願ひいたします。

さて、松島クリニックは平成29年に開院30年を迎えることができました。開院式にご参加いただいた先生方には御礼申し上げます。今後もお紹介いただいた患者さまには丁寧な診療を心がけて参ります。話は逸れますが、平成30年2月には東京の浜松町に松島クリニック汐留を開院いたします。都内在住で松島クリニックと同様の内視鏡検査を希望される患者様に対応いたしました。駅からも近く利便性がよいところに位置しています。ホームページも作成しましたので閲覧いただければと思います。最後に私、長谷川信吾は平成30年3月末日で松島病院を退職いたします。個人的な理由により5月に名古屋に移住します。平成5年から松島病院に勤務して以来、横浜を離れることはありませんでした。在職中は先生方に温かく見守られながら診療が行えたことに感謝いたします。今後も松島病院をはじめとする恵仁会の諸施設を宜しくお願いいたします。

（文責：長谷川信吾）

## 辻仲病院 柏の葉

〒277-0871 柏市若柴 178-2 柏の葉キャンパス 148 街区 6  
TEL 04-7137-3737 FAX 04-7137-3738

皆様お元気でしょうか。辻仲病院柏の葉の浜畑です。毎年この時期に関連病院だよりを依頼されるとまた1年が過ぎてしまったのかと年月の速さを痛感します。当院の周囲の環境は新興の市街地のせいと毎年少しずつ変化しております。周囲の景観もかなり変化しています。創設者の辻仲先生が柏の葉に病院を開院する際にこの地域の未来予想図を描いた大きな絵がありこれをたいそう気に入っていたそうでした。現在もまだ院長室にかざっておりますが、少しずつこの絵に近づいてきているように思えてうれしく感じます。病院からの景色は30数階建てのマンションが4か所もありかなり変化してきていますが、まだ筑波山はよく見えます。

東京大学や千葉大学のキャンパスもあり学園都市としても魅力はあるように思います。商業施設も徐々に増えて蔦屋書店もできましたが、今後さらにガード下の小規模店舗などの構想もあり、いままで近くであまり飲食できる施設がなかったのが改善してきています。ちょい飲みができるようになりそうです。

病院のほうは特に変わりなく診療を続けております。

骨盤臓器の疾患、消化管の疾患を中心に診療を続けております。また緩和ケア病棟も順調に機能しており、講習を受けに来る看護師も多数おります。骨盤臓器脱手術は経腔的にも腹腔鏡下にもできる体制になり、直腸脱や大腸癌、婦人科疾患も腹腔鏡下で手術する症例数が増えています。技術認定医は3名おりかなり充実してきていると思います。

内視鏡の件数も毎年順調に増加しており先生方の技量も向上しているのか増加の割には仕事は楽になっています。

国立がんセンター東病院の大腸外科の先生方とISRの術後の機能改善について共同で治療を行っております。食事療法や薬物療法、バイオフィードバック、場合によっては仙骨神経刺激療法を行い機能改善をはかるように努力しているところです。今後はさらに内視鏡科などともいろいろ研究できるとよいかとも思っております。

横浜から遠く、なかなかお会いする機会は少ないですが今後とも、当院、東葛辻仲病院、辻仲柏クリニック、アルト新橋クリニック、辻仲つくばクリニックともどもよろしく願いいたします。

(文責：浜畑幸弘)

## 藤沢湘南台病院

〒252-0802 藤沢市高倉 2345  
TEL 0466-44-1451 FAX 0466-44-6771

藤沢湘南台病院の外科は、旧第1外科から総院長（鈴木紳一郎先生）、院長（山本裕司先生）はじめスタッフ計10名で本年度は診療にあたっています。

上部・下部消化管や肝胆膵の悪性疾患、単径ヘルニアや胆石・胆嚢炎、炎症性腸疾患、肛門疾患、甲状腺疾患また原発性肺癌・転移性肺癌や気胸などの呼吸器系等の症例も有り多岐にわたって診療を行っています。また、内視鏡手術も積極的に行っております。

さらに、肛門疾患の手術件数は県内有数で、近隣からの紹介患者も多数いらっしゃいます。

そして旧第2外科からの小泉が救急部門の責任者として、引き続き当院の救急患者の初期診療に携わっております。今年度からスタッフも増員され3名体制で診療にあたっています。そのおかげか救急車の引き受け台数も

2,500台を越え、藤沢市北部地域、横浜市泉区・瀬谷区、大和市、綾瀬市の救急体制に一層の貢献をしている自負があります。

初期診療を行う症例も、敗血症やショックの重症症例や、交通外傷、肺炎等の感染症と多岐にわたり、各科の専門医とも連携し、可能な限り対応しております。また、藤沢市民病院救急救命センター、横浜医療センター救急救命センター等とも連携させて頂いており、迅速かつ的確な初期治療を行うよう努力しております。

来年度からは、ICUが開設され、さらなる重症例の受け入れを期待されると思われ、ますますその重要度は増加すると思われま。

(文責：小泉泰裕)

当院は1985年に、松田好雄先生－横浜市大医学部S43年卒で、第9代同門会会長－が御開業されて、早32年が経つ。約8年前から御子息の東京医科大学出身（H11年卒）、松田大助先生が、院内の仕組みから職員の指導をはじめ、経営から外来診療、消化管内視鏡検査（本年度、荒川区胃がん内視鏡検診も開始した）手術などを緻密に主導されている。

本年度は建物の壁紙を改装した。スタッフのアイデアで、モダンな淡い木漏れ日がモチーフの壁紙になり院内の雰囲気が一新した。

手術は主に肛門疾患であるが、痔核、裂肛、直腸脱、また痔瘻では深部痔瘻も認める。手術中には大きめのモニターを見ながら、リアルタイムで説明している。患者さんに大変好評である。筆者は勤務して26年目だが、現在は日帰り希望の患者さんに対して個々に応じた最小限の肛門疾患外来手術を行なっている。過日、第72回日本大腸肛門病学会の福岡国際会議場で、外来手術をまとめたものを発表し、先輩の大木繁男元助教授、土屋周二名誉教授に当日偶然、御指導いただいたことは大変有難く感動したことは記憶に新しい。

## 【H29年の実績】

\*手術は、ALTA治療・痔核根治手術・裂肛根治手術・直腸脱・その他の手術（腰椎麻酔下）は総計約1000例

（Ⅲ型痔瘻の手術（Hanley法 18例を含む）

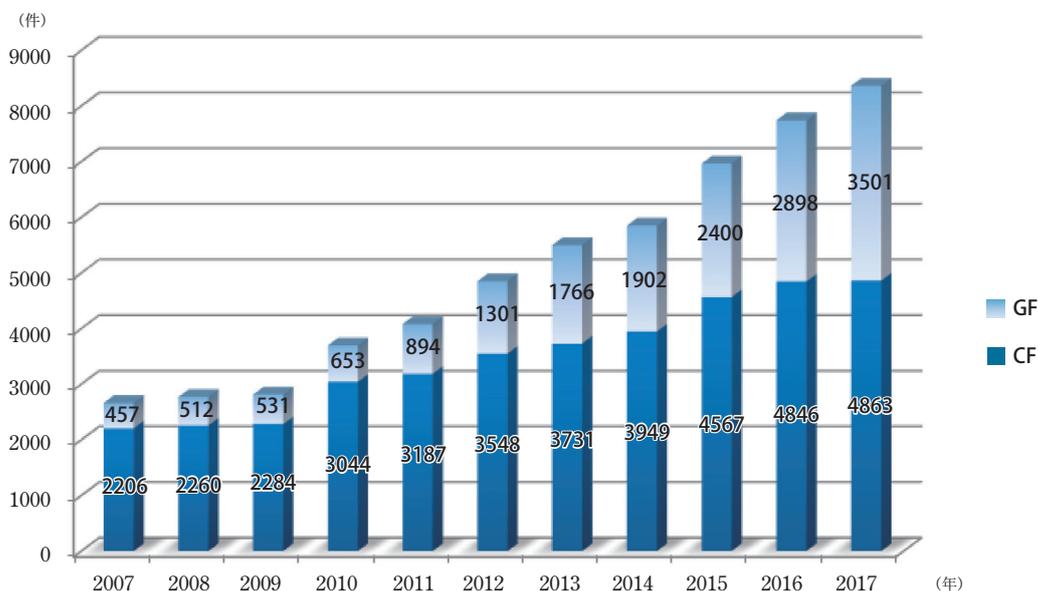
\*内視鏡検査件数：図参照

\*上部消化管は3501例、下部消化管4863例、腹部超音波検査は2330例であった。

炎症性腸疾患IBDは年々患者数が増加し、当院でも治療指針に基づき診療している。松田好雄院長は医局員の時に元厚生省 炎症性腸疾患研究班に関わられた経緯があるが、その当時と今とでは治療法も大分変化している。

潰瘍性大腸炎で来院される患者さんは軽症から中等症がほとんどで、重症化、劇症化した場合には連携した大規模病院に紹介する。治療難解な場合は同門の福島恒元助教授、横浜市民病院副院長の杉田昭先生と炎症性腸疾患科 科長の小金井一隆先生らにご指導いただいている。またクローン病の治療は重症度や病型にもよるが、中等度以上で肛門病変がある場合、特に痔瘻ではドレナージ切開やシートン法を行い、トップダウンで生物学的製剤をすることがある。また、本年度は顆粒球吸着療法

内視鏡検査件数



granulocyte apheresis (GCAP) を導入したが、その際、ときとうクリニック院長 時任敏基先生（横浜市大S63年卒）のもとを大助副院長と当院スタッフが訪ね、参考にしている。紙面をお借りしてお礼申し上げたい。

内科外科を問わず、肛門診療や手術などの見学も受け入れている。先日、同門でご開業の山岡クリニック 山岡博之先生（元講師）の長女の藤川善子先生が見学に来

られ、大変嬉しかった。診療のお役に立てていただければ幸いだ。

今年度も同門の先生方に支えられた。感謝とともに後輩の来訪を期待する。

（文責：大高京子（横浜市大 S56年卒））



平成29年 荒川外科肛門科医院 忘年会（上野・東天紅にて）

# 平成30年度 関連施設勤務者

(2018年4月1日より)

●独立行政法人国立病院機構横浜医療センター 〒245-8575 横浜市戸塚区原宿3-60-2  
TEL 045-851-2621 FAX 045-853-8359

統括診療部長 関戸 仁 (昭.58)  
外科部長 松田 悟郎 (平.5) 武田 和永 (平.6)  
外科医長 清水 哲也 (平.9)  
外科医師 中川 和哉 (平.17) 小暮 悠 (平.21) 森 康一 (平.21)  
荒木謙太郎 (平.22)  
非常勤勤務 太田 郁子 (平.14)

●横浜市立市民病院 〒240-0062 横浜市保土ヶ谷区岡沢町56  
TEL 045-331-1961 FAX 045-332-5599

消化器外科部長 高橋 正純 (昭.58) 望月 康久 (昭.62) 田中 邦哉 (平.1)  
消化器外科副医長 大田 洋平 (平.16)  
消化器外科医師 高橋 弘毅 (平.24)  
炎症性腸疾患科部長 小金井一隆 (昭.61)  
炎症性腸疾患科医長 辰巳 健志 (平.12)  
乳腺外科長・市民病院癌センター担当部長  
石山 暁 (昭.58)  
乳腺外科部長 鬼頭 礼子 (平.9)

●藤沢市民病院 〒251-8550 藤沢市藤沢2-6-1  
TEL 0466-25-3111 FAX 0466-25-3545

消化器外科部長 山岸 茂 (平.7)  
消化器外科医員 牧野 洋知 (平.8) 南 裕太 (平.13) 山本 晋也 (平.16)  
田 鍾寛 (平.21) 矢後 彰一 (平.23) 佐原 康太 (平.24)  
豊田 純哉 (平.26)  
呼吸器外科部長 吉本 昇 (平.5)

●伊東市民病院 〒414-0055 伊東市岡196-1  
TEL 0557-37-2626 FAX 0557-35-0631

診療部長・外科部長 神谷 紀之 (平.4)

●横須賀市立市民病院 〒240-0195 横須賀市長坂1-3-2  
TEL 046-856-3136 FAX 046-858-1776

管理者 久保 章 (昭.51)  
副病院長・診療部長 亀田久仁郎 (昭.63)  
診療部長 長嶺弘太郎 (平.5)  
医師 中山 岳龍 (平.20) 山田 淳貴 (平.24) 中崎 佑介 (平.25)

●茅ヶ崎市立病院

〒253-0042 茅ヶ崎市本村5-15-1  
TEL 0467-52-1111 FAX 0467-54-0770

乳腺外科部長 山田 顕光 (平.16)  
乳腺外科医師 南澤 恵佑 (平.25) \* 4~9月 大石 裕佳 (平.26) \* 10~3月  
外科医師 大石 裕佳 (平.26) \* 4~9月 南澤 恵佑 (平.25) \* 10~3月

●横浜労災病院

〒222-0036 横浜市港北区小机町3211  
TEL 045-474-8111 FAX 045-474-8323

乳腺外科部長 千島 隆司 (平.3)  
乳腺外科医師 門倉 俊明 (平.18) 木村 安希 (平.25)  
外科副部長 松尾 憲一 (平.6)  
外科医師 平井 公也 (平.25)

●横須賀共済病院

〒238-8558 横須賀市米ヶ浜通1-16  
TEL 046-822-2710 FAX 046-825-2103

病院長 長堀 薫 (昭.53)  
消化器病センター長、外科部長  
舛井 秀宣 (昭.62)  
外科副部長 野尻 和典 (平.12)  
医長 吉田 謙一 (平.8) 木村 準 (平.15) 諏訪 宏和 (平.15)  
医員 後藤 晃紀 (平.20) 阿部 有佳 (平.23) 藤原 大樹 (平.25)  
非常勤医師 太田 郁子 (平.14)

●横浜みなと赤十字病院

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1  
TEL 045-628-6100 FAX 045-628-6101

がんセンター長 阿部 哲夫 (昭.48)  
緩和ケアセンター長 緩和ケア科部長  
小尾 芳郎 (昭.57)  
外科部長、肝胆膵外科部長、院長補佐  
杉田 光隆 (平.5)  
食道・胃外科副部長 小野 秀高 (平.10)  
医長 渡部 顕 (平.16)  
外科医員 有坂 早香 (平.20) 鳥谷建一郎 (平.25) 大矢 浩貴 (平.26)  
須藤 友奈 (平.26)  
乳腺外科部長 清水 大輔 (平.8)  
乳腺外科医員 嶋田 和博 (平.15)

●**済生会横浜市南部病院**

〒234-8503 横浜市港南区港南台3-2-10  
TEL 045-832-1111 FAX 045-832-8335

診療顧問 部長 がん診療支援センター長  
池 秀之 (昭.54)

副院長 主任部長 チーム医療総合教育センター長  
福島 忠男 (昭.62)

部 長 長谷川誠司 (平.2) 上田 倫夫 (平.6)

医 員 和田 朋子 (平.20) 朴 峻 (平.23) 田中 淑江 (平.24)

●**済生会若草病院**

〒236-8653 横浜市金沢区平潟町12-1  
TEL 045-781-8811 FAX 045-784-5443

外科部長 診療部長 地域包括センター長 内視鏡センター長  
簾田康一郎 (昭.60)

医 長 三邊 大介 (平.2)

坂本 里紗 (平.21)

●**JCHO横浜保土ヶ谷中央病院**

〒240-8585 横浜市保土ヶ谷区釜台町43-1  
TEL 045-331-1251 FAX 045-331-0864

外科部長 上向 伸幸 (平.6) 谷口 浩一 (平.11)

医 師 川口 大輔 (平.19) 高畑 太輔 (平.25)

検査科 窪田 徹 (昭.61)

●**JCHO横浜中央病院**

〒231-8553 神奈川県横浜市中区山下町268  
TEL 045-641-1921

外科医員 小笠原康夫 (平.19)

●**横浜掖済会病院 外科**

〒231-0036 横浜市中区山田町1-2  
TEL 045-261-8191 FAX 045-261-8149

副 院 長 佐藤 芳樹 (昭.59)

部 長 森岡 大介 (平.5)

泉澤 祐介 (平.16)

●**NTT東日本関東病院 外科**

〒141-8625 東京都品川区東五反田5-9-22  
TEL 03-3448-6111 FAX 03-3448-6558

医 長 樺山 将士 (平.14)

医 師 山口 和哉 (平.22)

●**長津田厚生総合病院 外科**

〒226-0027 横浜市緑区長津田4-23-1  
TEL 045-981-1201 FAX 045-981-1205

外科部長 森 隆太郎 (平.12)

医 師 平谷 清吾 (平.18)

●育生会横浜病院

〒240-0025 横浜市保土ヶ谷区狩場町200-7  
TEL 045-712-9921 FAX 045-712-9926

名誉院長 塩谷 陽介 (昭.36)  
院長 長堀 優 (昭.58)  
医員 大山 倫男 (平.18)

●神奈川県立こども医療センター 外科

〒232-0066 神奈川県横浜市南区六ツ川2-138-4  
TEL 045-711-2351 FAX 045-721-3324

医師 浅野 史雄 (平.17)

●港南台病院

〒234-8506 横浜市港南区港南台2-7-41  
TEL 045-831-8181 FAX 045-831-8281

副院長 神谷 周明 (昭.45)  
大塚 裕一 (平.8)  
山口 直孝 (平.13)

●聖路加国際病院 乳腺外科

〒104-8560 東京都中央区明石町9-1  
TEL 03-3541-5151

医員 喜多久美子 (平.17) \*留学中

●松島病院

〒220-0041 横浜市西区戸部本町19-11  
TEL 045-321-7311 FAX 045-321-7330

理事長・総院長 松島 誠 (昭.53)  
医局長 長谷川信吾 (昭.62)

●松島ランドーマーククリニック

〒220-8107 横浜市西区みなとみらい2-2-1-1 横浜ランドマークタワー 7F  
TEL 045-222-5577

院長・松島病院 理事  
松村奈緒美 (平.5)

●栃木県立がんセンター

〒320-0834 宇都宮市陽南4-9-13  
TEL 028-658-5151 FAX 028-658-5669

菊地祐太郎 (平.21)

●藤沢湘南台病院

〒252-0802 藤沢市高倉2345  
TEL 0466-44-1451 FAX 0466-44-6771

救急科部長 外科担当部長 (救急)  
小泉 泰裕 (昭.61)

●関沢クリニック

〒236-0053 横浜市金沢区能見台通8-28  
TEL 045-786-8852 FAX 045-786-9293

---

関澤健太郎 (平.19)

●荒川外科肛門科

〒116-0002 東京都荒川区荒川4-2-7  
TEL 03-3806-8213

---

院 長	松田 好雄 (昭.43)
副 院 長	大高 京子 (昭.56)
医 員	井上 英美 (平.19)

●仙台オープン病院 外科

〒983-0824 仙台市宮城野区鶴ヶ谷5-22-1  
TEL 022-252-1111

---

シニアレジデント 須田 睦 (平.26)